

第 2 回 館山市議会定例会会議録
(第 2 号)

1 昭和58年6月20日(月曜日)午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 27名

1 番 神田 守隆
3 番 山中金治郎
5 番 川名 正二
7 番 榎本 春光
9 番 福原 勤
11 番 飯田 義男
13 番 石井 昌治
15 番 渡辺 昭夫
17 番 近藤 好雄
20 番 石井 武敏
22 番 林 豊
24 番 流山源次郎
26 番 石井 正
28 番 安澤 徳順

2 番 田沢 勝信
4 番 日下 君敏
6 番 生稻 陸
8 番 小宮 利夫
10 番 横溝 功
12 番 石井 謀
14 番 伊藤幸太郎
16 番 松下 正己
19 番 黒川 平治
21 番 吉田勇治郎
23 番 伊賀 多朗
25 番 五十嵐 昇
27 番 安西 益男

1 欠席議員 1名

18 番 和田 一郎

1 出席説明員

第1号に加えて教育委員会委員長関 和雄

第1号から選挙管理委員会委員長、選挙管理委員会事務局書記長、監査委員、監査事務局長、農業委員会会長、農業委員会事務局長を除く

1 出席事務局職員

第1号に同じ

1 議事日程(第2号)

昭和58年6月20日午前10時開議

日程第1 行政一般通告質問

開 議 午前10時1分

○議長(石井 正君) 本日の出席議員数26名、これより第2回市議会

定例会第2日の会議を開会し、直ちに本日の会議を開きます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

行政一般通告質問

○議長（石井 正君） 日程第1、これより通告による行政一般質問を行います。

締め切り日の6月15日正午までに提出のありました議員、要旨及びその順序はお手元に配付のとおりであります。

これより順次質問を行います。

この際、申し上げます。通告質問者は以上のとおりであり、他に関連質問等の発言もあろうかと思いますが、本日は通告者のみといたします。

発言の方法は、最初の発言を20分以内とし、執行当局の答弁は時間外再質問は答弁を含めて30分以内といたします。

これより順次発言を願います。

3番議員山中金治郎君御登壇願います。

（3番議員山中金治郎君登壇）

○3番（山中金治郎君） 私は、本定例会におきまして諸先輩のお許しを得て、すでに通告いたしてございます5点の当面する問題につきまして、市長のお考えをお聞かせいただきたく御質問を申し上げる次第でございます。

まず、第1点の観光資源の開発と市債の償還見込みについてでございます。

わが国の経済は、皆さま御承知のとおりここ数年来不況下にありまして低成長を続けております。その影響を受け館山市におきましても各企業とも苦しい経営状態にあり、特に勤労者は実質所得の減少によりレジャー関係の支出額は極力抑えられているため、多くの観光業者は極度に困難な状態にあります。すでに何件かの大型倒産を見るに至っていることは御承知のとおりだと思います。しかしながら、大型観光施設や人気を呼ぶ観光施設を持った観光地には現在でも観光客が相当流れている状況であります。

わが館山市も観光立市を唱えてから20年以上を経過し、年々少しずつではありますが、観光施設がふえつつあると思います。しかしながら、四

季を通じての観光客を呼ぶ魅力のある大型観光施設はいまだ実現いたしておりません。市長は、市内の産業をすべて観光に結びつけて考える方針と聞いておりますが、館山市の観光に対してどのような認識を持っておられるのか、お聞かせ願いたいと思います。

市民は、大型観光施設の実現を待ちこがれております。大型観光施設なら多額の投資を必要といたしますが、民間企業を誘致するようなお考えがあるのかどうか、またそのような運動をされたことがあるのかどうか、お聞きしたいと思います。さらに民間企業の進出がない場合には、市による大型観光施設の設置がぜひ必要と思われるのですが、これらについてどうお考えなのか。

また、聞くところによりますと、いままで各種の振興計画が多額の費用をかけて委託されておりますが、そのうち特に観光振興計画による実施事業はどのぐらいの進捗状況か、お聞かせを願いたいと思います。

さらに、大型施設には相当の資金を必要といたしますが、現在の館山市の市債は膨大な額に上っております。各種の建設費を除いてみると予算に占める公債費の比率は高率になると思われますが、これらの償還財源に自信があるかどうか、その償還見通しについてお聞かせを願いたいと思います。

次に第2点、少年非行対策についてでございますが、全国的に少年の非行化が進み問題も深刻化しつつあります。

戦前の厳しい教育や家庭のしつけを受けた私には本当に理解に苦しむことが多々ございます。校内暴力、家庭内暴力その他いろいろございますが、このような姿を見て、ただ政治が悪いとか、先生が悪いんだ、親が悪いんだと人事のように片づけておりますが、自己反省をしようとしないう責任のなすり合いをしている姿がたびたび見られます。

21世紀を担う少年の教育がこのままでよいものかどうか、自分のこととして素直に受けとめて真剣にその対策を考えるべきであると思います。

少年非行の年齢も年々低年齢化しているようですが、市内の中学生にはそのような非行の芽ばえがないのかどうか、その実態と、それが防止対策についてお聞かせを願いたいと思います。

また、PTA活動は、私は、先生と生徒とまた父兄の三者で種々話し合

いをして、それによってよりよい教育のあり方を見い出すのが、このPTA活動の趣旨のように考えておるものですが、市といたしましてどのような指導をされているのか、お聞かせ願いたいと思います。

次に第3点、館山市の職員給与と議員報酬についてでございます。

最近、連日のように公務員給与につきまして報道がされております。その中で、武蔵野市や鎌倉市の退職金問題を見ますと、一般の市民の考えとはかけ離れたような高額に驚いておる人が多いと思います。他市はとにかくとして館山市の職員給与の実態はどうなっておるのか、国家公務員との給与の比率、ラスパイレス指数はどうか、お聞かせ願いたいと思います。

また、議員報酬の件でございますが、さきの4月の選挙中に私はずいぶんこの件について耳にいたしました。特別職の報酬が、また市会議員の報酬が高過ぎるんじゃないかということをやずいぶん選挙中に耳にいたしましたのでございます。選挙に金のかかるのは、これも一つの理由じゃないかと思ひます。

過日のサンケイ新聞にこの問題が取り上げられて、日本の市とアメリカの市との議員の数や報酬について連載をされておりました。両国の国情の違いがあると思ひます。また考え方の相違もあろうかと思ひますが、その人数や額の開きがあまりにも大きいのに驚いたのは私ばかりではないと思ひます。

館山市におきまして、今日の人口と経済状態の中で現在の議員の数や報酬が妥当かどうか、市長の考え方をお聞かせ願いたいと思ひます。

また、これに対して国の指導はどうされておるのか、標準額があったらお聞かせ願いたいと思ひます。

4点目でございます。豊房育成牧場の現況と今後の運営についてでございます。

酪農の振興対策として優良な子牛の飼育を行っていることは、まことに当を得たものと思ひますが、近年労務費や飼料の値上がりにて運営も現行の委託料では容易ではないと思ひます。特にこの直営事業というのは、とにかく経済観念が薄れがちになりやすい欠点がございます。しかし、これも酪農事業の振興のために当然であるという考え方があるいはあろうかと思ひますが、その現在の状態と今後の運営についての対策をお聞かせ願いた

いと思います。

第5点でございます。国道127号バイパスの建設についてでございますが、館山市の経済を左右するのは交通事情のよしあしが大きなウェートを占めますことは御承知のとおりでございますが、この国道127号バイパスの建設促進という言葉は私は耳にたこの出るほど聞いております。しかしなかなか進んでおりません。

しかしながら、幸いにいたしまして市御当局の皆さん方の御努力によりまして土地買収も順調に進んでおるように聞いております。年内にもこの着工の見通しが立つかのように聞いておりますが、その現況と着工の見通しについてお聞かせを願いたいと思います。

以上、御質問を申し上げましたが、御答弁は簡明、率直にお願いを申し上げ、また御答弁によりまして再質問をさせていただきます。終わります。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 山中議員の御質問にお答え申し上げます。

第1点は、観光資源の開発と市債の償還見込みについての御質問でございますが、館山市の観光資源は温暖な気候と変化に富んだ海岸線が最大の資源であり、また里見氏を代表とする多くの歴史、文化の遺跡が点在しております。

本市の置かれる地理的条件からして、これらの資源を観光に結びつけることが地域経済発展の最良の方策と考えられます。

長期的な計画としては、四季型観光への転換として58年度から3年間事業で観光振興事業の一つとしてのスポーツの里づくりを民間活力の高揚を図り実施しており、また観光農業及び観光漁業等についても関係組合等とも十分協議し、拡大もしくは推進に努力してまいりたいと考えております。

今後の観光事業については、既存の各種任意団体等の法人化等により組織の強化を図るよう指導しながら、地域産業の活性化を推進してまいり所存でございます。

次に、市債の償還見込みについてでございますが、御案内のとおり地方公共団体を取り巻く現況は、低成長を続ける経済情勢、国の予算の状況等の影響を受け、かつてない厳しい財政環境のもとに置かれており、今後

早急な改善が期待できる状態にはございません。

市債は、社会資本の整備、充実など住民福祉の向上を図るための財源調達的手段として認められておりますが、当市といたしましては市税などの一般財源のみで市民の要請にこたえて公共施設の整備、拡充を推進することは困難であり、地方債の活用が不可欠でございます。しかしながら、健全財政を維持するためには一般財源の推移に合わせて適債事業の厳選と的確な運用を行う必要があります。

今後の償還見込みにつきましては、それぞれ資金区分による利率、償還年限あるいは後年度以降の起債額により変動がございましたが、市税及び交付税を初めとする一般財源の動向、地方債許可制限比率の推移などに十分配慮しながら、償還計画に基づく5年ないし25年の年次償還あるいは繰り上げ償還も行っていきたいと考えております。

次に、少年非行対策でございますが、青少年の非行の増加と低年齢化の傾向は全国的なもので、千葉県においても例外ではありません。

館山警察署管内の少年非行の実態を非行少年補導状況表をもとに、本年1月から5月までを去年同期と比較いたしますと、総件数では44件から23件に、最も多い窃盗も26件から18件に減少しております。窃盗中の最も件数の多いオートバイの窃盗も、中学生は10件から3件に減少してきております。

しかし、減少してきているとはいっても、潜在危険に対しては常に留意しなければならないと考えます。

市といたしましては、義務教育期間は人間形成の基礎をつくる重要な段階でありますので、特に校長会、教頭会、生徒指導主任、PTA等を通じて1つ、ゆとりある充実した学校生活の実現。2つ、教師と生徒の人間的な接触を深め信頼関係の確立。3つ、学校、家庭、社会が連帯意識の上に地域ぐるみの指導体制の確立。等を中心に、創意を生かした学校経営に努め一人一人を育てる教育を推進するなど積極的な施策を進めていく所存でございます。

次に、PTA活動に対する指導ですが、PTAが青少年健全育成のために果たす役割は非常に大きく、市といたしましても、PTA連絡協議会を通じ会員のための学習や、実践活動について積極的に指導をしております。

すなわち、全幼稚園、小学校の父母を対象とした幼母学級 9 学級、家庭教育学級 11 学級、各学級とも年間 6 ないし 8 講座を開設し成果を上げております。特に、本年度は非行対策をメインテーマとして非行防止をさらに進めております。

また、単位 P T A においては校外指導部が中心となり、地域の教育環境浄化運動として補導パトロール、悪書追放、美化作業、交通安全指導等々会員一体となり、活動の充実と組織強化に努めております。

次に大きな第 3 点、館山市の職員の給与と議員報酬についての御質問でございますが、まず職員の給与と国家公務員給与との比率でございますが、現在国家公務員との給与水準を比較する場合に用いているラスパイレス指数によりますと、57 年 4 月 1 日現在の比率では、国家公務員を 100 とした場合、本市一般行政職員の給料は 111.8 となっております。

次に、議員報酬の標準額についての国の指導はとの御質問でございますが、人口に比例した標準額については特に指導はされておりませんが、改定にあたっては財政状況、他団体の状況等を勘案し、実施するよう指導されております。

なお、議員報酬の人口 5 万から 10 万の都市の全国平均と比べまして、館山市は大差はございませんので、まあ妥当だというふうに考えております。

第 4 点、豊房育成牧場の現況と今後の運営についての御質問でございますが、現在市内酪農家よりの預託牛 93 頭を育成しております。預託牛は生後 6 ないし 9 カ月のホルスタイン種の雌牛を 1 年間育成し、その間受胎させ預託者に返還しております。預託料は月 1 万 2000 円であります。

この管理、育成にあたっている職員は 2 名、その他臨時職員 3 名でございます。

今後の運営についての御質問でございますが、市といたしまして、いままでは牧場経営の合理化に努力してまいりましたが、財政的負担も大きく、今後さらに効果的運営を図るため畜産の専門農協であります安房畜産農業協同組合に管理及び運営の一部を委託する方針で折衝を進めております。

次に質問の大きな第 5 点、国道 127 号バイパス建設についてでございますが、国道 127 号は木更津、君津市内では現道改良として、鋸南町、

館山市、富浦町内では部分バイパスとして事業が計画されておりますが、君津市の子安地先の4車線化は完成し、供用が開始され、木更津市内も用地買収段階であります。

鋸南バイパスは現在ルートの検討を進めていると伺っております。

また、館山バイパスは全長7.2kmで、このうち館山市域内は5.2kmありますが、現在まで延長約2km、38%が関係者の協力によりまして用地の買収が完了いたしました。

なお、今年度事業としては用地買収のほか、平久里川から国道128号までの用地測量と那古地域において工事の一部着手も予定されております。また富浦町内でも福沢地区は用地測量も過日実施され、いよいよ買収の段階となりました。

以上、答弁を終わります。

○3番(山中金治郎君) 再質問いたします。

先ほど私、質問の中で通告に出してないことに触れたかと思しますので、それに対して答弁がございませんでしたのでお伺いいたします。

第1点の観光資源の開発と財政の問題でございますが、スポーツの里づくりを新しい計画に取り入れて進めておるということ、まことに結構だと思います。

しかし、私は館山の現在の状態を見ますと、奇想天外に思えるぐらいの思い切った観光施設が必要であろうと思います。しかし、これには財源を伴うことで大変かと思いますが、先ほど質問の中で申し上げました民間企業の誘致の考えがおりなのかどうか、重ねて御質問をいたしたいと思えます。

市債の償還のことでございますが、われわれ企業会計の中で育っておりますと、私ども借入れをするときには償還見込みをきっちりと立てた上で借入れするのが常識でございますが、このような考え方が入りますと、私は標準財政規模を高めるにはどうしても税収をふやすしかないと考えておるわけでございます。

ここに、日経新聞で5月の14日付に載せられた「地方自治体のなれ合い論」というのがございます。ちょっと読んでみますが、「地方自治体に番頭手代のなれ合い論というたとえがあるが、のんきな主人すなわち納税

者が気がつかないうちに、番頭すなわち自治体の長、及び手代——自治体の職員が、主人のお金すなわち税金をなれ合いで山分けをし、足りない分を借金すなわち地方債でそっと穴埋めしている。ある日、積もり積もって借金の請求書を見せられた主人がびっくりして、返済のために番頭を叱咤激励して金策すなわち増税に走り回らせるが、力尽きて倒産をした」と、私はこれは笑いごとでは済まされないと、実はこれを見たようなわけでございます。

ですから、私はこの市債を、これは事業を進めるのに市債は私は当然だと思いますが、しかし借金でございますので、どうしても返すことを考えるべきだと思います。それにはどうしても市の——市民の収入をふやして、そうして税金を喜んで多く納めていただいて、これで返すしかないというように考えられますが、そのへんについてのお考えをお伺いしたいと思います。

また、第2点目の少年非行の問題でございますが、私は戦前の教育を身につけておりますので、現在の教育のあり方を見ますと、倫理教育が足りないのではないかと思いますが、昔の修身のような、そのような親に孝行をなささい、兄弟なかよくしなさい、自分のことは自分でしなさいというごくありふれたことが教育されておらない。このへんに原因があるかと思っています。

しかし、現在の法律の枠の中ではむずかしいかと思いますが、市の教育委員会としてそのようなことを取り上げてほしいと思いますが、そのお考えをお聞きしたいと思います。

また、PTAにからんでのことでございますが、私は現在の親子の触れ合いの状態を見ますと、非常に私は親子の対話が少ないように思われます。とことんまで親子で話し合いをして、厳しく子供を育てていただければ、もっと素直に、すばらしい次代を背負う少年に育ち上がると信じています。

私の知人にすばらしい母親がおります。これは白浜の人でございますが、女手一人で子供3人を育て上げました。本人は——その母親は昔の大学まで出た教養のある方でございますが、女手一つで子供を育てておりますので、経済的に非常に苦しい。そこで子供を中学卒業で就職させました。それまでは子供さんは非常に頭のいい方で抵抗があったようでございますが、

話し合いに話し合いを重ねて、とことん話し合いをして、そうして就職の場を一緒になって探してやって、藤沢の日本料理店に就職いたしました。

2番目の子供が、白浜中学の先生から、この子は非常にすぐれて、特に運動の神経がすぐれているので、体育大まで進めてくださいと言われてまして、本人も、母親もその気であったんですけども、子供も家の経済状態を見て、またお母さんとしても兄貴の方とのやりとりの中で考えて、また話し合いを重ねて、その子供も、ぼくも兄貴と同じところに行くよということでフランス料理の方に就職をいたしました。

私は、感心をしたことは、その子供たちが後で、ぼくたち後悔はしなかったかと聞きましたところが、全然ぼくは後悔してない、かえってぼくの同級生の大学に行ってる子供の方が哀れに感ずると言っておりました。その子がおふくろに25までお母さんががんばってください、25になれば必ずぼくは日本料理の店を出すからと、私まことにすばらしいと、新制中学を出て、同僚はわずか3人しかいない。3人の中に自分の——親の一番かわいい子供を入れたという親の勇気といいますか、厳しさといいますか、私は非常にすばらしいと思っておりました。

そのように、子供ととことんまで対話をして、厳しく育てていけば、子供はすばらしい子供に、少年としてまた成人していくわけですので、そのような親子の対話、また子供がかわいければかわいいほど厳しく子供を育てるといような母親、父兄の精神的な教育を私はお願いしたいと思います。

第3点でございますが、これは職員、議員報酬の問題でございますが、私はこれを取り上げたのは、一般事業所に勤めている社員と市の職員との給与の差がかなりあると、これは私は多いものを下げろというふうなことで取り上げたんではありません。

私は、市内の事業所に勤めておる人たちが給与が少ないというのは、市内の事業所自体の経営者に入る収入が非常に少ない。それですから、それに勤めている人の給料が少ないわけですので、できれば景気の思い切った刺激策をとって、市内の事業所の収入を思い切ってふやすようなことを考えてほしいということで、私はこれを取り上げたわけでございます。

佐世保重工の坪内さんのような考え方からいきますれば、3割の増収を図るんだと、もしそれができなければ3割思い切って切れという簡単明瞭な考え方で、佐世保重工を再建いたしました、私もその考えが正しいと思います。

どうしても市内の事業所の収入が上がらないで、市内の事業所に勤めている人たちの給料がまことに低いと、現在のままで続くのであれば、これは館山市の公務員給与も私は考えなくちゃいけない。ですから、私は高いものを下げるのではなくて、現在の収入の少ない人を引き上げるような行政を私はしてほしいということで、これを取り上げたわけでございます。

議員報酬にしましても、職員給与にしましても、昭和47年から9年にかけてあの高度成長のときに倍増したように思われます。館山市にしてもそのようだと思います。

ですから、景気のいいときに思い切って給料が上がったんだから、景気の悪いときは横ばいか、ダウンというのが私は普通の企業の考え方でいけば当然そのようなことが行われておるわけでございます。公務員だけがゆったりとした生活ができ、納税者である市内の事業所に勤めている人たちまた商人が生活に追われているようなことではないと思いますので、そのような思い切った景気の刺激策をしてほしいということで、これを載せたわけでございますので、その点御了解いただいて思い切った産業の育成制度をお願いいたしたいと思います。

次に、第4点でございますが、この牧場の経営委託を畜協に一部を依頼するという御答弁でございましたが、私もこのような経営は、そういう姿がよろしいと思いますので、これは了解をいたします。

第5点の127号バイパスの問題でございますが、年内にも部分着工のようなお答えをいただきまして、われわれもできるだけこの点については御協力をさせていただきたいと思います。

なお、富浦から木更津までの間のバイパスを早急に実現させていただけるよう運動の展開をお願いいたします。

以上でございます。

○市長（半澤良一君） 御質問の大きな第1点の中で民間企業を誘致する考えはないかという御質問がございましたが、進出を希望する企業がござ

いますれば、いつでもこれに対する便宜を図ってまいりたいと思っておりますけれども、現在のところ民間にその進出を打診したことはございません。

○総務部長（鶴岡卓樹君） 地方債の償還についてお答えいたします。

先生のおっしゃるように、俗に地方団体の財政運営につきましては、「入りを図って出るを制する」と、そういうことわざといいますが、言い方もございますが、お話のように財政状況の判断にあたりましてはいろいろの角度から、特に長期的な健全性を保持するためには地方債の現在高がどうなるかということは、将来の義務的な経費なものですから、先ほど市長からお答えしましたように公債比率ということで一つの見方がございます。この財政運営につきましては、長期的なことですから特段の配慮をしております。

御案内のように、地方債の許可は自治大臣の許可になります。公債比率俗に制限比率という言葉もございますが、それが20%以上だと借入れが制限されますが、当市は57年度11.4%の現況でございまして、具体的に申しますと、57年度では償還が8億2500万円、予算額では10億ちょっと超えていますが、繰り上げ償還がございますので、償還計画が8億2500万円、これが14、5億以上ですと起債の制限対象となったと推計されます。

先生のおっしゃるように、将来の100億の議論がございます。その場合でも一つの見方として、公債比率の出し方はいろいろございますので省かせていただきますが、100億を超えましても、市長からお答えいたしましたとおり、適債事業を厳選し、借入を原則として少なくする。そういう方針でございますので、十分5年ないし25年で償還できると、そういう前提で事業を行っております。もちろん基本的には借りないこと、そういう基本原則でございますが、やはり行財政需要にどうこたえるかということで、できるだけ努力していきたいと考えております。

○教育長（安田豊作君） 第2点の少年非行に関連して2点御質問がございましたので、お答えいたしたいと思います。

第1の、いまの子供に倫理教育が必要じゃないかというお話でございますが、まさにそのとおりでございます。現在、学校では昔の修身にかわる

時間として道徳の時間というのがありまして、週2時間人間としてのあり方について学習をしております。

さらに、それでは足りないといいますか、というのでゆとりの時間というのをもちました。これについては各学校が自由でございませけれども、考え方としては子供に実践力といいますか、実行する力をつけるということ。それから勤労意欲——働くことを好む子供にしたいというようなこと。それから個性を発揮するというような、そうしたことに重点を置いて、子供に実際活動をさせて教育するという時間がやはり2時間持たれるようになっております。

さらに、非行問題に関連しまして、学校では生徒指導という言い方で言っておりますけれども、子供の1日の行動について指導する時間を授業の合間に、学校に来たとき、あるいは帰りの時間、休みの時間等を通して指導するというようなことで、おっしゃる倫理教育にあたる教育についてはかなり重点的に行っておる次第でございます。

それから、第2点のPTA活動といいますか、親子の話し合いが足りないんじゃないかというようなこと、これは確かに統計的に見ましても、親子の対話という時間は少ないというようなことを言われております。

しかし、先ほど市長から答弁しましたように、現在のPTAは家庭教育学級、その他の学習の時間を持って、親と子の触れあひ合いの時間を持つ、またその内容についても勉強するという時間を持っております。

確かに、例に挙げました白浜の子供さんの例なんか現在においては珍しい一つの美談じゃないかと思いますが、そういうことも学習の中身としては取り上げられて勉強は進められておるようなわけでございます。そういうことでまだ力が足りないかもしれませんが、そういう方向で、そういう時間を持って鋭意努力をしておるということで御理解をいただきたいと思っております。以上。

○3番（山中金治郎君） 重ねてお伺いいたします。

私は、財政が厳しいのであまり借金をするなということではありません。私は市民の収益をふやすことであれば、思い切ったことをするにはかなりの金がかかると思いますので、そういうふうな起債は結構だと思います。

そこで、この前一昨年でしたか、夏の反省会の折にお話し合いを市の方

としたときがございましたが、そのときに私は、この静かな海を利用した観光資源をつくったらどうかということでお話申し上げたことがございます。そのときに私は、館山市は財政が非常に厳しいので多額の金を使うのはちょっと無理だろうと、そこでこの静かな海の中から大きな噴水を上げたらどうかということで栗田工業の資料を説明をしたことがございますが、その後で市の方で、東芝の方からおそらく資料の提供があったと思います。夢の島のようなすばらしい構想が東芝から出されて私自身それを聞いたことがございます。しかしそれは膨大な費用がかかるように私は考えられておりますが、そのようにすばらしいことを市の御当局は考えられておるようでございます。私はそのような何か思い切った奇想天外に思えるようなことをやるしか、私は館山市をよみがえらせることは無理だと実は考えておるものでございます。

昨日の日曜日にも白浜や、鴨川の方、小湊の方は大ぜいの観光客が見えておりました。館山は少ししか来ておらない。そういう状態で何か館山に魅力のある資源開発がされれば、私は大ぜいの人が館山に来るだろうし、また館山に住み着いてくれるようになるかと思っておりますので、そのへんでこの財政の問題も解決すると思っておりますので、そういうふうな思い切ったことをされるようなお考えがあるのかどうか重ねてお伺いをいたしたいと思っております。

○市長（半澤良一君） 魅力ある観光地づくり、観光施設をつくるということには大賛成でございますが、何が具体的に魅力ある施設であるか、さらにまたそれが財政的にはどういうことになるのかということについては、今後研究してみたいと思っております。

○3番（山中金治郎君） なにしろ、今回初めてでございますので、だいぶ質問もちぐはぐで申しわけないと思っております。

現在の観光資源の問題につきましては、ぜひとも市長さんがいま御答弁願った魅力のあるものを研究をされて早急にひとつ取り入れてほしいと思っております。

また、公務員給与の問題でございますが、私は市民から市の職員の給料とか、また当市の議員の報酬が高過ぎるんじゃないかというような批判を受けないようにひとつ対策をお考え願いたいと思っております。

きょうは、つじつまの合わない質問を申し上げましたが、これで質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（石井 正君） 以上で、3番議員君の質問を終わります。

次、2番議員田沢勝信君御登壇願います。

（2番議員田沢勝信君登壇）

○2番（田沢勝信君） 私は、社会党を代表してすでに通告いたしました4点について御質問を申し上げます。

第1点は、市職員の給与の引き上げについてどのように考えているのか、お伺いいたします。

第2点は、住宅問題についてどのように考えているのか、とりわけ館山駅西口地区土地区画整理事業の中で北条市営住宅はどうなるのか、お伺いします。

第3点は、事故防止という観点から、用水路及び排水路の安全管理はどのように行われているのか、伺います。

第4点は、福祉対策についてであります。精神薄弱者並びに心身障害者の雇用対策をどのように推進するのか、伺います。

まず第1点は、市職員の給与引き上げの問題についてであります。昨年、国家公務員に対する人事院勧告が凍結されました。それに追従せざるを得ない形で、本市職員の給与も凍結されたままであります。人事院は昨年度その勧告の目的に基づいて給与を4.58%引き上げるよう勧告いたしました。しかし本来、そこで働く者の責任に起因しない国及び県、市の財政状況から、本市職員の給与の凍結が現在も引き続き行われているわけがあります。行政の軸となって働く職員にとって納得しかねるものがあるかと推察するものであります。

人事院は、今年度勧告に対する基本方針として、昨年度勧告分を尊重して勧告するとしています。

市長のこれまでの、人事院勧告は尊重するとは、そのことも合わせて尊重すると理解していいのか、改めて市長の御見解をお伺いいたします。

関連しまして、職員の給与を考えた場合調整手当の問題もあるかと思えます。県内21市で支給されているようですが、しかもその中には国の指定地域外でも調整手当支給の目的、趣旨にかんがみて自治体独自に支給し

ているところが12市あるようです。また県の職員について見ると3年間の異動保証期間を含めると、全体の8割に及ぶ職員が支給されていると伺っております。

そこで、関連して質問しますが、調整手当支給の目的からいって当市はそれに該当する状況にあるのか、所見をお聞かせ願います。

第2点の住宅問題についてであります。昭和55年10月の国勢調査で見ますと、当市では1室のみの住宅に2人以上住んでいる世帯数が72世帯、2室のみで3人以上住んでいる世帯が826世帯であります。しかも、1室のみの場合ですと、1世帯当たりの世帯員で見ますと、世帯員が4人で最高9.6世帯員、平均では5.7世帯員であります。また2室の場合には世帯員が6人になって最高13.5世帯員、平均11世帯員であります。またこの調査では明らかにされておりませんが、住宅の狭さと、その世帯の収入は密接に関連しているということも常識的な判断だと思います。

住宅対策の大きな柱である市営住宅は、54年那古の第1種住宅の建設で総戸数314戸でありましたが、空き家の募集をしてもなかなか入れないという声も多く聞いています。市の住宅事情に関する認識と今後の住宅対策について伺います。

関連いたしまして、館山駅西口地区土地区画整理事業の中で北条市営住宅はどうなるのか、取りつぶしによって市営住宅総戸数を減らすことはないと思いますが、そのことも合わせて伺います。

第3点であります。排水路に落ちてけが人が出ているという市民の苦情を耳にしています。用水路及び排水路の安全管理はどのように行われているのかをお聞きいたします。この点については人命尊重、事故の事前防止という観点からも大事な問題だと思いますので、よろしくお願いします。

最後に、第4点目の精神薄弱者並びに心身障害者の雇用対策について質問いたします。

ここで、私は雇用という言葉を用いましたが、現状からいって精神薄弱者及び心身障害者の保護就労というように御理解いただきたいと思います。

昭和52年に県立安房養護学校が開設され、昨年以来高等部卒業生を見るに至るまでになっております。58年度在校生内訳を見ますと、小学部計で38名、中学部1年生6名、2年生3名、3年生6名の計15名。高

等部1年生6名、2年生15名、3年生6名と聞いております。今後高等部卒業生が確実にふえてまいります。今後12年間で市内在住の卒業生は31名ほどが予想されます。

在校時に身につけられた生活習慣及び一人一人の能力に応じた成長というものを卒業後も発展させていくことは、御本人にとっても、また御父兄の皆さんにとりましても切なる願いかと思えます。またそのような社会的な場が保障されるということは、養護学校で教育、生活指導に当たる職員にとっても大きな励ましになるかと思えます。

そこで、質問いたしますが、養護学校の開設以来6年を経過しようとしておりますが、卒業後の社会的受け入れ体制をどのように考え、準備されてきたのか、卒業後の進路等の把握をしておりましたら、合わせてお聞かせ願います。

保護就労保障と関連しまして、福祉作業所の現状、増設の展望について御説明をいただきたいと存じます。

以上、4点について質問いたします。答弁によりまして再質問をいたしたいと思えます。以上でございます。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 田沢議員の御質問にお答えいたします。

第1点は、市役所職員の給与引き上げについてでございますが、市職員の給料改定につきましては、従来から県に準じて取り扱ってきておりますので、本年度の給与引き上げについては人事院勧告に伴う国及び県の動向を見きわめた上で実施いたしたいと考えております。

また、調整手当については、社会情勢を考慮し、現段階では支給する考えはございません。

住宅問題でございますが、当市の市営住宅は1種住宅42戸、2種住宅272戸計314戸でございますが、公営住宅法の目的に従い住宅に困窮する低額所得者に対して低廉な家賃で賃貸することにより、市民生活の安定と福祉の増進を図っているところでございますが、いまなお市営住宅への入居を希望する者が多いのが実情でございます。

これらの人たちのために建てかえによりさらに量的充実と質的充実を図り、住みよい環境整備を進めたいと考えております。

なお、入居者に建てかえの必要性をよく理解していただき、入居者と十分話し合いを持ちながら万全を期してまいりたいと考えております。

西口地区の住宅に関してでございますが、館山駅西口地区につきましては、昭和60年度土地区画整理事業の事業認可に向けて現在、基本計画案の作成等調査を進めている段階でございます。

この中で、北条市営住宅につきましては、現在の用途地域に適合した商業地として位置づけており、公有地の有効利用を図る上から他へ確保することが望ましいと考えております。

次に、用水路並びに排水路の安全管理についてでございますが、農業関係の排水路等は大部分が安房中央東部並びに西部地区の圃場整備区域内であります。この圃場整備事業は昭和47年から始め現在県営事業で施行中であります。

この地区の排水路の管理は千葉県より安房中央土地改良区が委託を受けて行っております。実質的には土地改良区が地元工区と連携をとりながら使用管理を行っております。用水路はほとんどパイプラインにより行っておりますので、管理上問題はございません。

都市排水路では、危険性の高い個所で安全施設等を設置することが可能な場所については整備をしてきており、またこの施設の補修等については適時点検し、修繕の必要なものは補修をいたしております。

次に第4点、精神薄弱者並びに心身障害者の雇用対策についての御質問でございますが、千葉県立安房養護学校の建設当時の状況と現況及び職業進路担当者と雇用者、行政とのつながりはよくできているかというような趣旨の御質問でございましたが、県立安房養護学校は昭和52年4月に開校いたしました。これは心身障害者の教育を受け持つ学校関係者と地元住民の障害者に対する理解と協力により設立されたものであります。

卒業生の雇用問題は、養護学校の進路指導員と行政機関の密接な連携により、昭和56年度には7名の卒業生のうち4名を福祉作業所で受け入れ、昭和57年度におきましては7名のうち3名の卒業生を受け入れております。今後におきましても各更生援護施設と種々折衝し、対象者に適応した施設への入所について配慮してまいりたいと考えております。

次に、福祉作業所の現況と将来の展望ということでございますが、現在

精神薄弱者にはボールペンの組み立て作業、また重度障害身障者には七宝焼の作業を実施し、円滑なる運営を図っておりますが、入所者も年々増加の一途をたどり現在定員19名に対して18名とほぼ満員に近い状態でございますので、県とも協議、折衝の上、増築ということで種々検討を加えている段階でございます。

以上、答弁を終わります。

○2番(田沢勝信君) 御答弁ありがとうございます。

再質問いたします。第1点の調整手当の支給の問題であります。私は県内で21カ所で支給され、しかも県の職員が3年間の異動保証期間を含めて80%支給されている。こういう状況にかんがみまして、当市において調整手当の目的、趣旨を考えた場合、それに該当するのかなどなのかということを実問いたしました。そのことを再度資料等あるいはまた市独自の調査等がありましたら、合わせて御説明をお願いします。

第2点目ですが、ただいま市長の御答弁によりますと、市営住宅は長期的には減らさない、希望が多いというように御理解いたしますが、そのようでよろしいのかということを再度御質問いたします。

さらに、北条市営住宅に現在空き家はないのか、またその他の市営住宅はどうか、そのことと、北条市営住宅の取り壊し、その住民の移転は関係しているのか、そういうことを60年までの市営住宅総戸数の問題として再度御質問申し上げます。ただでさえ少ない市営住宅でありますから、60年度までその総戸数を充実させる、そのことが大事ではないかと思えます。

また、関連いたしまして、市営住宅の建てかえ、充実という御答弁がありました。その時期等がわかっておりましたら、合わせて説明をお願いします。

第3点目の排水路の安全管理の問題についてであります。細かいことを質問いたします。

八幡の排水路がありますが、安房高グラウンド脇をって房総米穀近くを流れる排水路であります。住宅地に接している場所です。特に排水路を深くした部分があり、そこでけが人がすでに3人ほど出ているわけですが、安全対策を早急に講ずる必要があるかと思えますが、その件につ

いてどのように認識しているのか、お聞かせ願いたいと思います。

以上であります。

○総務部長（鶴岡卓樹君） 調整手当について御回答いたします。

御案内のように調整手当というのは民間におきます賃金、物価及び生計費が特に高い地域に在任する職員に対して給料とかいろいろほかの、たとえば扶養手当の月額合計額に何％かを支給するのが原則でございます。これが原則ですが、お話のように市では21市の話もございまして、私の方も実は53年11月から調査を始めまして——ということは物価調査でございますが、木更津、千葉、船橋と当館山市ということで54年度、55年度2回実施した経緯がございます。結果は市長が御答弁申し上げましたとおりでございます。

○経済部長（山田俊康君） 市営住宅の北条住宅に空き家はないかということでございますが、1戸空き家がございます。北条住宅は建設は昭和29年、経過年数は29年ほどたっております。いろいろ補修等も相当かかってきております。

先ほど、60年の総戸数は確保できるのかどうかというような御質問でございますが、市長が申し上げましたように、需要もございますので確保していく、なお全体的な面で見ますと古い住宅、たとえば笠名住宅ですと35年建設ということで24年を経過しております。平家住宅等を中層住宅に建てかえることも必要になってようかと思ひます。そういったことも含めて総戸数の確保はより以上、戸数自体としてはふえるという意味で市長からお答えを申し上げた次第でございます。

それから、八幡の排水路の関係でございますが、現在排水路の脇の道路の幅員が2m程度でございます。現実の問題として安全さくを設けますと、自動車の出入ができないということで御理解をいただけないままになっているというのが実情でございます。自動車を持っている人等から安全上の防護対策等をしたいということで、市としては地元話し合いをしたわけでございますが、現実の問題としては御理解がいただけない。もう一つは水路幅ちょっと大きいんですけれども、ふたをかけてはどうかという問題についても検討いたしましたけれども、水路の構造上どうしても管理のため——現在は水路が石積みになっています、それをふたをかけるというこ

とになりますと、カルバート構造ということになろうかと思えますけれども、管理上困難が生じてきてしまう。現実の問題としては、この水路につきましては前には相当汚泥等で悪臭等も放っていたために、水路敷の中にU字溝を敷設した。水路を下げながらU字溝を敷設した。きれいになったということでございます。けが人が3人ほど出たということでございますが、けが人の出ないようにということでいろいろ対策も地元と話し合いを進めているというのが現状でございます。

○2番（田沢勝信君） 第3点目の排水路の安全管理の面について再度質問したいと思います。

確かに、道路幅が2 mぐらいで、そこに車が出入りしているのが現状であります。この道路に手すりなりをつけまして安全対策を講じようとするれば、現に生活して車が出入りしているわけでありますから、非常に困難かというふうに考えます。しかしながら、この排水路にふたをすることにつきましては、確かに現在の市の財政状況が最大の理由かと思われれますが、やろうと思えば決してできないことはない考える次第であります。

この排水路の構造が、私が見た限りを申し上げますが、この排水路が排水の流れが悪いということで従来の排水路を深く掘りまして、そこに新しいU字溝の排水路が通っております。したがって、過って落ちれば必ずけがをする。そのような構造になっているかと思えます。

この問題につきまして私は、当然過って落ちればけがをする。そのような認識があるわけですから、もしけが人が出て市の安全管理を追及された場合、かえってその方が高くつくんではないのか、そのような心配をしているわけであります。そのような意味で先ほど3人ほどのけが人が現に出ていると、そういうことを申し上げたわけであります。

このふたをするにつきましては、現在の市の財政からいって困難があるかと思えますが、安全対策ということを考えまして早急に地元の住民と相談の上で対策を講じていただきたい。そのような要望を申し上げまして、私の質問を終えていきたいと思えます。

○議長（石井 正君） 以上で、2番議員君の質問を終わります。

次、1番議員神田守隆君御登壇願います。

（1番議員神田守隆君登壇）

○1番（神田守隆君）　すでに通告をいたしました6点にわたって御質問を申し上げます。

まず第1点は、アメリカ軍の核空母ミッドウェー艦載機の訓練基地化問題についてであります。去る6月10日付の千葉日報紙によりますと「館山、木更津基地が候補に」と、この問題が1面に大変大きく取り上げられています。この記事の中では、厚木にかわる基地の設定は困難とのことから、暫定案として、夜間離着陸訓練機の訓練を関東周辺に分散させるとしています。その暫定案に館山、木更津が有力な候補地として盛り込まれたと、その理由は厚木からの距離が大変に近いことにある。こういうことであります。

館山基地が厚木基地とセットにして、その補助的機能を担う基地として、いわゆるタッチアンドゴーの訓練場にされるのではと思われます。タッチアンドゴーの訓練は着陸をするわけではないわけですから、滑走路も短くて済ますことができると考えられます。

私は、事態は大変に憂慮すべき事態に進んでいるのではないかと危惧をするものであります。改めて市長にこの問題についての所信をお聞かせ願いたいと思うわけであります。

市長は、館山が候補に上った場合、事前に県及び地元市町村には十分相談する旨の説明があったと3月の議会で答弁をなさっているわけですが、この問題について防衛施設庁と何らかの説明はあったのかどうか、お聞かせを願いたいと思います。

次に第2点、家庭排水を目的とした埋設管の道路占用料の徴収免除の問題についてであります。58年度から道路占用料を値上げする条例の改定にあたってその審議の中で、市長は家庭排水の埋設管については道路占用料徴収について免除の方向で検討すると答弁をいたしました。どのように検討されたのか、お聞かせを願いたいと思うわけであります。

第3点、那古大芝踏切の改善問題についてであります。大芝踏切は1中の南側にある第4種の踏切であります。中学校に近いこともあり、中学生などの子供の通行量も多く、また去年は踏切に接続する市道が舗装をされ、一般の通行もふえております。

踏切の現状は、市道が2m余あるのに対して、踏切のそれはわずかに1

m そそこそというようなことで、自転車で通過するにしても乗ったままでは通ることもできません。踏切とも言えないのが現状であります。市道の整備にあたってこの踏切がその市道を切断しているわけでありますから、踏切の整備と相まって初めて道路の整備の意味も出てこようかと思えます。この大芝踏切の改善について市はどのように検討しているのか、お聞かせを願いたいと思えます。

第4点は、脳性麻痺児らの訓練施設の問題についてであります。現在脳性麻痺児らの訓練が特別養護老人ホームの訓練室を間借りして行われています。訓練は週2回午後から行われているわけでありますが、この午後からの訓練というのは子供たちにとっては昼寝の時間であり、幼児期の子供たちにとって大変な負担になっています。訓練室そのものはもともとお年寄りらのための訓練室であり、そのお年寄りらが使わない日の午後ということで脳性麻痺児らのための訓練が始まったわけでありますが、こうした間借りではなく、子供たちが伸び伸びと訓練ができるように脳性麻痺児らのための訓練施設を市で設置する考えはないのかどうか、お聞かせ願いたいと思うわけであります。

第5点、福祉作業所の増設問題についてであります。福祉作業所は、先ほどの問題についての質問、御答弁がありました。現在定員19名に対し18人入所というように定員ぎりぎりになっておるわけであります。実際には臨時的に入所すると、こういう方も含めまして事実上定員オーバーとなっているのが現状かと認識しております。今後とも安房養護学校の卒業生など見込みますと、施設はもう手いっぱい、福祉作業所の増設がぜひとも必要だと思えます。

先ほどの質問に対する御答弁の中で、この福祉作業所の増設について市当局としても県と協議中であると、こういう御答弁がいただきました。この内容でぜひとも力を尽くしていただきたい。こうした先ほどの質疑を踏まえまして1点お聞かせを願いたいと思えます。この県と協議というのは一体いつの時期に、どういう見込みで増設がされとお考えなのか、お聞かせを願いたいと思うわけであります。

第6点、慈恩院付近の排水対策についてお尋ねをいたします。慈恩院の前を通る市道は、雨のたびに道路側溝から水が吹き出し道路が冠水をいた

します。それというのも道路に側溝はあるのだが、この側溝が流れる先がない行きどまりの側溝になっているために坂道に沿って流れた水はまた道路にあふれ出すようになっています。何のための道路側溝かと言わざるを得ません。流れる先のない道路側溝をつくるなど私には全く理解できないところであります。この排水対策について市はどのように考えているのか、御説明を願いたいと思います。

以上、6点にわたって御質問申し上げましたが、御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 神田議員の御質問にお答えをいたします。

第1点、米空母ミッドウェー艦載機の訓練基地問題についてでございますが、この関係につきましては、昨年12月と本年3月の定例市議会でお答え申し上げましたことが基本的な姿勢でございます。

その後も断片的に新聞等に報道されておりますが、現時点におきましても公式にも、非公式にもそのようなお話は聞いておりませんし、また県におきましても同様とのことでございますが、仮に御質問のような代替地の候補になりますような場合には、さきに申し上げましたように住民の安全と生活環境を守る立場から反対してまいる所存でございます。

第2点、家庭排水を目的とした埋設管の道路占用料の件でございますが、市道側溝の整備等もでございますので、占用料徴収について免除の方向で検討しており、今年度中に条例改正をお願いしまして59年4月から免除いたしたいと考えております。

第3点、那古大芝踏切の改善でございますが、この大芝踏切は車両通行禁止の規制された保安設備のない4種踏切でございますので、館山保線区では、今後ともその規制された枠内で人、2輪車の安全確保を図ってまいりたいということでございます。

現在、国鉄当局ではむしろ踏切そのものをなくす方向を進めておるところでございますので、警報機の設置等設備改善することは非常に困難と思われます。しかしながら、実情は通学路の一部に利用されていることを訴えながら、大芝踏切の改善を国鉄当局に要請してまいりたいと考えております。

第4点、小児麻痺児らの訓練施設についてでございますが、小児麻痺児に対しての機能回復については現在、館山特別養護老人ホームの機能回復訓練室を利用いたしまして、保母2名により、これら対象児の機能の回復を図っておりますが、利用時間や機能回復器具の設置場所等において種々問題がございますので、館山養護老人ホームと相談いたしまして善処していきたいと考えております。

次に、福祉作業所の増設についてでございますが、先ほど田沢議員にお答えいたしましたとおりでございますが、館山市福祉作業所は、在宅の心身障害者でありまして雇用されることが困難な者に対しまして社会生活の適応性を高めるための指導を行い、その自立助長を目的として設立されているわけですが、利用定員は19名となっております、入所者の増加によりまして現在18名となっております。今後も増加見込みでございますので、県との協議の上、増築ということで検討中でございますが、県とは現在協議中でありまして、なるべく早い機会に実現をいたしたいと考えております。

第6点、慈恩院付近の排水対策でございますが、側溝の敷設を考えておりますけれども、道路幅が2mと狭く、交通安全の面からも現状の道路に敷設できませんので、道路沿いの民有地の地主の御協力を得なければ設置できませんので、関係部落に協力方をお願いをしている段階でございます。

以上、答弁を終わります。

○1番（神田守隆君） 艦載機の訓練基地化問題であります。この問題について、そうすると千葉日報に報道された記事については、事実としては市当局としては確認はできないと、こういうことでありますか。

○市長公室長（斎藤武男君） 新聞報道の範囲にとどまっております。

○1番（神田守隆君） この問題は、館山市の市のあり方そのものにかかわる大変大きな問題であるだけに、こうした問題というのは重大な関心を払わざるを得ないわけであります。

私は、市長さんはそうした動きがあったならば反対していくと、こういうような態度表明をされたことは、それはそれとして評価するものであります。こういうふうに新聞に大きく報道されたということは、これは何らかのやはり大きなそうした動きがあるというふうに考えざるを得ないわ

けであります。またそれだけの心配を市民がされるのも当然のことだろうと思うわけであります。実際下総基地周辺の反対運動というのも、新聞に報道されたことをきっかけにいたしまして大きく発展しているように聞いております。

そこで、市長さんにお伺いしたいわけですが、この問題で下総基地の、たとえば我孫子市では市長のこの問題についての市民への御理解を得るといようなことで広報に報道したといようなことがいわれておりますが、市長自身この問題について十分住民によく理解してもらうことが、今後もし候補地に上がるといようなことがあった場合に、住民についてこの問題について大きく理解しておいてもらうといようなことが大変重要なんではないかというふうに思うんですが、このへんについていかがお考えですか。

○市長（半澤良一君） 「水鳥の羽音に驚いて逃げ出す」といった例もございますので、そんなに大騒ぎするほどのこともなかろうと、基本的には反対だという態度を堅持すればいいというふうに考えております。

○1番（神田守隆君） 自信を持っておられるようですから、大変心強いと思うんですけども、市長がきっぱりと反対ということで大変大事なことだと思います。

しかし、逆に言いますと、この問題で市長自身、あるいは市自身にどれだけの権限があるかと、これは安保条約に基づいてアメリカに対する条約上の責任としてある以上、実際にはこの館山市が館山市議会で、そういうことがまかりならぬといようなことで、決議したといようなことで、いわゆる拒否権といようなものが何ら保証されていないんじゃないかなろうか、こういう危惧を持つわけなんです。市長さんは自信を持っておられるようなんですけれども、実際にこうしたことをやめさせることができるとお考えですか。

○市長（半澤良一君） 国がいろんな施策を行う場合に、住民の同意が得られないでものができるというふうには考えておりません。

○1番（神田守隆君） 私もその点については全く市長さんと同じで、ですから私あえてこの問題を言うわけなんです。やはり住民の同意こういうものをきちんと——この問題について反対なんだという意思をしっかりと住民の中で培っていくことが大変大事なことなんじゃないかなろうかと、です

からあえて我孫子の例というような形で持ち出したわけなんですけれども、そういうことを踏まえまして、いかがお考えですか。

○市長（半澤良一君） 住民が反対であることは明白でありますので、その必要はないというように考えております。

○1番（神田守隆君） 何を根拠に住民が反対だというふうにおっしゃられるのか、ちょっと私には理解に苦しむのですけれども、たとえば住民の代表であるこの館山市議会においても、まだこの問題についての結論を出していないわけなんですね。そういう段階で住民の多数が反対だと、市長自身そういうふうにお考えだというふうに理解をしてよろしいかというように思うんですね。

この問題は、特にやはり革新だとか、保守だとかこういう問題で、あるいは何党だとかというような問題でない形でどこでも発展しているだけに、やはりこうした時点の中で、市長のこの問題についての認識というのが非常に大きな役割、意味を担っているんじゃないかなと思うわけで、住民はみんな反対だと、これが市長のこの問題についての考え方だということを確認をしてよいかどうか、お尋ねをいたします。

○市長（半澤良一君） そのとおりでございます。

○1番（神田守隆君） わかりました。この問題については市長の認識一応了解をいたしますが、さらに私自身としては我孫子などのような積極的な姿勢もう一步——私ども自身大変不安に思うものですから、なかなか館山市の中で住民が本当にみんなが反対だと言える状況にまだ十分になっていないんじゃないかなろうかというような——老婆心ながら思うわけで、この問題についても今後それぞれの局面の中で、十分私の意見も検討していただきたい。こういうふうに思うわけであります。

次に、家庭排水を目的とした埋設管の道路占用料の徴収免除の問題であります。これは59年度から免除するということで条例改正をすると、こういうふうにはっきりおっしゃっておるわけですから、そのことはよくわかりましたが、従来家庭雑排水の問題での徴収免除、これは条例改正をしなくても徴収免除を一般家庭では浄化槽を使わない場合にはしていたやに思うわけであります。したがって条例改正をまつまでもなく、現状の中で58年度から実施できるのではないかと思うのですが、いかがですか。

○経済部長（山田俊康君） 市道の側溝の整備等の状況にもよりまして、市道側溝が路線の片側だけにしかない場合、自分の宅地からその片側に出す場合には問題はない。ところが反対側から道路を横断して側溝に流すという場合には、従前から免除ということではなしに、徴収ということで条例どおりに実施しております。なお、件数全体で申し上げますと、事業所用を含めて75件、家庭用だけで69件でございます。

○1番（神田守隆君） もう1度お聞きしますが、事実関係——私ちょっと認識が違ったものですから、道路占用料の問題については、浄化槽を使っている家庭については道路占用料を徴収しているけれども、そうでない、浄化槽を使わなかった家庭の場合においては徴収免除をこれまでもしている。こういうような説明をこれまでもずっと聞いてきたんですが、その説明は誤りだったと、事実ではないということなんですか。

○経済部長（山田俊康君） いま申し上げましたように、道路の側溝整備等の関係から、この問題が起こっているというふうに私は理解しております。条例どおりにあらゆるものを運用しているということで自信を持っています。

○1番（神田守隆君） 59年度からということで、3月の議会での答弁でありましたので58年度から私どもは実施に移るんだというふうに認識をしておった。またその方向で検討されておるものだと思っておったわけですが、1年ずれたということは残念なことだと思うんですが、そういうことで実施に踏み切るということでもありますから、この問題については打ち切ります。

那古の大芝踏切の改善についてでありますが大変ゆゆしき話で、踏切そのものをなくす方向だと、こういうお話が出てきましたけれども、これはどういう踏切を国鉄はなくそうとしているというふうに理解をされておるのか。市内に4種は9カ所ですかの踏切がたしかあったように思いますが、4種の踏切を全部なくすという、そういうような意味合いのことなのかどうなのか。あるいはそれぞれ踏切の実情に応じて、どういうような点を考慮しながらこうした問題が検討されているのか、お聞かせを願いたいと思います。

それに対して、市としてこうした踏切そのものをなくしていくことにつ

いて市自身の考え、踏切整備問題についてはいかがお考えなのか、合わせてお聞かせを願いたいと思います。

○民生部長（鈴木 力君） 御承知のように、踏切の設備の改善につきましては国鉄当局の問題でございます。この踏切の事故防止につきましては安房地区の踏切事故防止対策協議会というところでいろいろ検討されておるようでございますが、お尋ねの国鉄当局の踏切をなくするという考え方につきましては、第4種の保安設備のないようなところを統廃合して、できるだけ踏切の数を減らすという考え方であるわけでございます。

それからなお、市の考え方ということでございますが、市といたしましては、当然のことでございますけれども、事故防止という策をまず考えていくということを考えております。

この大芝の踏切につきましては、私も現地を見たわけでございますけれども、確かにいまの状態では危険な状態であるわけでございます。保線区の方に尋ねましたところ、現在あそこは通行幅が1.8m、これをさくを設けて1m幅に規制しまして、自転車と歩行者の通行の安全を期する。こういう考え方に立っておるということを申し上げます。

なお、交通安全上、警察当局の意向を聞きますと、警察といたしましては、第4種の踏切をすべて第3種の踏切に格上げをして、そこに警報機をつけてもらう。これが一番望ましいということで先般の踏切事故防止対策協議会におきましても警察署長の方から国鉄当局に対しまして、その向きの要望がなされたというように聞いております。

○1番（神田守隆君） 国鉄の考えと警察の考えはよくわかりました。

市の考えとして、大芝の踏切については4種を3種に繰り上げるようにお考えなのかどうか、そのへんについての市の考えをお聞かせ願いたいと思います。

○民生部長（鈴木 力君） 現在いろいろと検討しておりまして、果たして3種に格上げした方がいいかどうかということの結論はまだ出ておりませんが、いずれにいたしましても事故のないような対策、対応を国鉄当局の方に強く要望してまいりたい。このように考えておる次第でございます。

○1番（神田守隆君） 現状は、大変子供たちが使っているというようなことで、非常に登下校時に使っているようすし、やはり整備をぜひ図っ

ていただきたい。3種に格上げをしていただきたい。こういうふうに思うわけであります。この問題について苦情といいますか、苦言といいますか、昨年道路の舗装を進めたわけです。これまで舗装してなかった市道を舗装し、海岸通りから国道まで舗装したわけですが、その真ん中に国鉄の線路があるということで、この舗装という仕事は当然踏切の整備と連動してこそ本当の意味でその意義が出てくると、こういうふうに思うのは、これは当然のことだろうと思うんです。しかし舗装を進めながら、この踏切の問題についてはなかなかそれと連動して行政的には対応していないということについて、やはり道路の整備とともに同時にこうした踏切の整備も当然進めていただきたかった。こういう点では行政の対応がちょっとばらばらではないかという点を考えますので、その点についての行政の対応といいますか、踏切の方は民生の方でやってるようですし、道路の舗装は建設の方でやってるように思いますので、そこいらのやはり連携といいますか、この視点がやはりうまくいっていなかったんじゃないかならうかというふうに思いますので、こうした問題について十分配慮していただきたいと思うんですが、これはそういうことで苦言を申し上げておきたいと思います。

脳性麻痺児らの訓練施設の問題に移りますが、先ほどのお話では、市長の答弁ではよくわからないんで、善処していくというような、この善処というのは全くくせ者で、やるんだかやらないんだかよくわからない。

現状から、やはりどういう点で一番問題かと私自身思うのは、いろいろお話を伺いますと、午後から訓練をするということが子供にとっては大変苦痛、障害を持っている子供たちだけに毎日毎日の生活のリズム——普通の障害のない子供でも午後は昼寝をする、こういうのがひとつの習慣になっていますし、それが子供の生育にとっても大変重要な役割を果たしているわけですから、子供の生活のリズムに合った形で訓練ができるのが一番望ましい。こう思うわけであります。

こうしたことから、現状ではなかなか間借りというような立場ですから、なかなかむずかしいと思うんですが、この問題について具体的な——午後ではなくて、午前中に訓練ができるような、そうした点についての検討がされているのかどうか、そのへんをお聞かせ願いたいと思うんですが、いかがですか。

○民生部長（鈴木 力君） 肢体不自由児の通園施設といたしまして、特別養護老人ホームの訓練施設をお借りいたしまして、簡易マザーズホームとしてやっておるわけでございますが、これにつきましては現在4、5名の方があそこを利用されておるわけでございますが、これらの方々はいずれも月3回誉田にございまずリハビリセンターここで医学的な療法あるいは生活指導、機能回復訓練こういうものをやりまして、さらに月1回君津の「あゆみ園」ここでも訓練を受けて来るわけでございます。そのほかに週2回簡易マザーズホームでいろいろ機能訓練を受けておるわけでございますが、現在あそこをお借りしているということは特老にいろんな訓練施設があるということでお借りしているわけでございますが、これからの老人施設だとか、児童福祉施設そういうものについては単に収容されている者だけでなく、地域のいろんな福祉の面で活用するのが望ましいだろう。そういうこともございまして、そういう意味からも特老施設を借用しておるわけでございますが、やはり御指摘のように確かに訓練の上からは午前中の方が子供の健康状態の上からもよろしいのではないかというように思うわけでございますが、これにつきましては先ほど市長からお答えございましたように、特別養護老人ホームの施設の方にもよく相談いたしまして、できれば午前中から、あるいは1回おきにそういう形でお借りしたい。このように考えておるわけでございます。

○1番（神田守隆君） そうは言っても相手のある話ですから、そういうふうになれば、それにこしたことはないわけですが、相手のある話ですし、ここでしかと御返事はいただけないかと思うんですが、こうした独自に市で施設をつくると、いろんな福祉施設を、どういう施設をつくっていくかという問題もあるんですけれども、そういう中で、リハビリの訓練施設こうしたものを今後コミュニティセンターとか、保健活動の拠点もできるわけですから、そうした中で、こうした問題を考えていくということはないのかどうか、お聞かせを願いたいと思います。

○民生部長（鈴木 力君） ただいま、コミュニティセンターの施設の中に肢体不自由児の機能訓練のできるような施設を設けたらどうか、こういうお尋ねでございますが、かつて保健センターの設備をどのような設備にするかということで検討いたしましたわけでございますが、その際にも肢体不

自由児あるいはまた老人のリハビリの部屋を設けたらということで種々検討いたしたわけですが、利用者の数の問題、肢体不自由児の場合には4、5名ですが、老人の方々が果たしてどの程度利用されるかということで検討したわけですが、なおあわせまして、理学療法士とか、作業療法士こうした方々の確保の問題、全体の部屋のスペースの問題等ございまして、当面保健センター内には設けない。こういうようなことで見送ったわけですが、そういう経緯がございますので、簡易マザーズホームとして現在やっております特別養護老人ホームで継続して実施する予定でございます。

○1番（神田守隆君） 大変この問題について、これまでに市長さんが、たとえば千葉の誉田までのバスだとか、あるいは市の保母さんによります訓練だとか大変積極的に取り組んでおられるという点で、大変評価しておりますわけですが、いまひとつこうした点についても十分今後検討していただきたいというふうに思います。

次に、福祉作業所の問題ですが、先ほど田沢議員からも質疑がされたところで、県と協議中で、増設については県と協議する。しかもなるべく早い時期にというような話がありましたが、この点について協議中のことです。から、いつということは確たる御返事はなかなかできないかと思いますが、大体どの程度というふうにお見込みであるか、これは腹づもりで結構でございますから、お聞かせを願いたい。

この問題と関連いたしまして、もうすでに現状いっばいで、来年どうするんだという具体的な問題がございます。こうした点について何か御配慮があるのかどうか、お聞かせを願いたいと思うわけでございます。

それから、ちょっと違った面からお聞かせを願いたいわけですが、現状大変狭いところで大ぜいの障害者たちが作業をしているわけでございます。特に夏などは大変に暑いと、障害を持ってる人たちでありますから、大変な暑さというものがいろいろ身体的な悪影響を及ぼすのも普通の人以上であります。それだけにこの作業環境の改善ということでせめてクーラーあたりを設置するお考えがないかどうか。特にここでは七宝焼の作業が行われて釜の温度も相当になるようであります。聞くところによりますと、大体34、5度の室内の作業環境になることもある。こういうことでありま

すから、やはりこれは障害を持った方々の作業環境としては大変酷だというふうに思うわけであります。こうした点からも、このクーラーをどう設置する、作業環境の改善を市としても考えるべきではないかというふうに思うんですが、この点についてもお聞かせ願いたいと思うわけであります。

○民生部長（鈴木 力君） 福祉作業所の増設の時期ということでございますが、これにつきましては先ほど市長の方から御答弁ございましたように、現在県の方と協議しておるわけであります。

福祉作業所の設置というのは、県の設置要綱というものがございまして、一つの定員というものが20名というふうに定められておるわけでございます。それらのからみ合い。もう一つは、建設に対する補助金の交付要綱というものもございしますが、それらの関係、こういった関係が県の方で承認されればそれに基づいて増設計画を立てると、こういうことでございます。

それから、来年の受け入れの問題でございしますが、現在18名おりますが、その中に精薄者が14名、身障者が4名こういう振り分けでございまして、福祉作業所というのは精神薄弱者の自活の道を開くための一つの援護施設でございまして、したがって当市の場合におきましては、便宜に重度身体障害者の方を受け入れましていろいろ生活指導もあわせてやっておるということでございますので、そういう関係から19名というのは精薄の定数でございしますので、その問題で来年度満ばいといひましても、定員の関係については解決するということでございますが、現在作業所の設備がない、狭い、こういうことでいろいろ苦慮しておるわけでございますので、その点については増設したいという気持を持っておるわけでございますが、あくまでも県の協議の整った次第というふうに考えております。

なお、作業環境の改善という面で、夏の期間クーラーを設置したらということでございますが、福祉作業所の運営につきましては運営委員会という制度がございまして、こういう問題も絶えず出るわけでございますが、いままで聞いた範囲では、入っていらっしゃる方が障害者の方でございしますので、クーラーをかけたことにより健康状態を損ねても困りますので、この点についてはさらにいろんな面から検討してみたい。こういうふうに考えておるわけでございます。

○1番（神田守隆君） クーラーの問題についても検討してみたいという
ようなお話で、身体障害者の方には冷氣に当たるといかなというような、
そうした方もおったように聞いておりますけれども、そういう方も退所さ
れたというように伺っておりますので、改めてぜひとも検討していただき
たい。

それから、第6点目の慈恩院付近の排水対策についてであります。民
有地というようなことで地主の了解を得ながら、側溝の整備を図っていき
たい。こういうようなお話でありましたが、私どうしてこんな流れる先の
ない側溝がつくられたのか非常に不思議に思うわけで、こういうような現
状というのは館山市内で——市当局としてはどういうところに何か所ある
というふうにつかんでおられるか、こういう非常にずさんなといえますか、
側溝工事、どういうふうにつかんでおられるか、その点についてお聞かせ
を願いたいと思います。そしてまたそれがどういう原因から生まれるのか、
幾つかその原因についてお考えのことがありましたら、お聞かせを願いた
いと思います。

○経済部長（山田俊康君） 現在、こういう状況の起きる最も大きな原因
というのはミニ開発、民間によります宅造等が——要するに許可を受けな
いでどんどんできるミニ開発によって発生しているというふうに思ってお
ります。個所数については把握しておりません。

○1番（神田守隆君） ミニ開発の問題、非常にいろんな、さまざまな問
題持っておりまして、これまでも開発行為についての市の指導要綱これを
改善するようという事で再三申し入れてきましたが、改めてこの問題
についても検討していただきますようお願いいたしまして、私の質問を
終わらせていただきます。

○議長（石井 正君） 以上で、1番議員君の質問を終わります。

午前の会議はこれにて休憩とし、午後1時再開といたします。

午前 11時54分 休憩

午後 1時 2分 再開

○議長（石井 正君） 午後の出席議員数27名、休憩前に引き続き会議
を開きます。

20番議員石井武敏君御登壇願います。

(20 番議員石井武敏君登壇)

○ 20 番 (石井武敏君) 私 は、す で に 通 告 を し て ご さ い ま す 各 諸 点 に つ き ま し て 御 質 問 を 申 し 上 げ ま す。

第 1 点 は、東 京 湾 時 代 に 即 応 し た 施 策 に つ い て。1、将 来 の 道 路 交 通 体 系 や 地 元 産 業 の 推 進。2、観 光 施 策。3、若 年 層 の 市 外 流 出 や 高 齢 化 対 策。

第 2 点、し 尿 汲 み 取 り 車 の 計 量 器 の 改 善 に つ い て。

第 3 点、福 祉 施 策 の 推 進 に つ い て。1、障 害 者 用 リ フ ト バ ス を 購 入 で き な い か。2、生 保 世 帯 に 医 療 券 の 発 行 は で き な い か。

第 4 点、市 道 の 舗 装 計 画 に つ い て ど の よ う に 推 進 さ れ て い る か の 4 点 に つ き ま し て 御 質 問 申 し 上 げ ま す。

ま ず 第 1 点 で ご さ い ま す が、さ き に 明 ら か に さ れ ま し た 県 の 5 カ 年 計 画 こ れ を 見 ま す と、当 市 は 県 の 計 画 の 中 で は 南 地 域 と い う よ う に 呼 ば れ る 地 域 割 に 属 し て お り ま す。こ の 南 地 域 に つ き ま し て は、県 で は 次 の よ う に 役 割 を 位 置 づ け を し て お り ま す。「東 京 湾 時 代 の 一 翼 を 担 い、新 し い 都 市 機 能 の 形 成 を 目 指 す 圏 域 で あ り、ま た 緑 と 海 の 豊 か な 自 然 を 守 り、活 用 し つ つ、21 世 紀 へ 向 か っ て 特 色 あ る 発 展 を 期 待 す る 圏 域 で あ る」とい う よ う に、そ の 将 来 像 を こ こ に 定 義 し て お り ま す。

こ の 計 画 が、す で に 東 京 湾 道 路 の 建 設 の 計 画 が 閣 議 で 決 め ら れ ま し た こ と は、す で に 当 局 も 十 分 御 承 知 で あ ろ う と い う よ う に 私 は 考 え て お り ま す。

こ こ に 示 さ れ て お り ま す よ う に、県 の 計 画 は 東 京 湾 道 路 の 建 設 に よ り ま す 来 た る べ き 東 京 湾 時 代 を 明 確 に 認 識 を し て 計 画 の 根 底 に し て い る と い う こ と、ま た 21 世 紀 へ の 展 望 を 目 指 し て い る と い う 旨 が 述 べ ら れ て い る わ け で あ り ま す。そ れ が こ の 計 画 の 特 色 と な っ て お り ま す。

私 は、こ の や が て 来 る 東 京 湾 時 代 に 即 応 し た 種 々 の 施 策 や 方 針 が 当 市 に は 必 要 で あ る と い う よ う に 考 え ま す。こ う し た 視 点 か ら 見 ま す と、将 来 あ る べ き 地 域 の 産 業 の 姿 や、望 ま し い 観 光 レ ク リ エ ー シ ョ ン ゾ ー ン の 形 成 や、教 育、社 会 福 祉 こ れ ら の 充 実 を 考 え る 必 要 が あ る と い う よ う に 思 う わ け で あ り ま す。

さ て、質 問 の 趣 旨 で あ り ま す が、本 市 は 大 変 に 温 暖 な 気 候 と 南 国 的 な 海 岸 線 に 恵 ま れ る と い う 好 条 件 を 有 し て お り ま す が、し か し な が ら 道 路 交 通 体 系 の 立 ち 遅 れ に よ り ま す 袋 小 路 性 に よ り ま し て、産 業 や 経 済 が 伸 び 悩 ん

でいるというのが現状であります。将来の道路体系や地元産業の推進について市長はどのようにお考えになりますか、お聞かせ願いたいと思います。

また、東京湾時代に即応した観光という観点からどのような考えや計画をお持ちですか、お答えをいただきたいと思います。

また、当市は若年層の市外流出によります人口構造の急速な高齢化の現象が進行しておりますが、これらに対する施策についてはどのようにお考えになりますか、お聞かせ願いたいと思います。

次に、第2点のし尿汲み取りについてでございますが、最近従量制汲み取り料金の問題が多いように思われます。原因の調査のため各戸別に訪問しまして調査をしました結果、計量器によります料金説明が不明朗であると、そういう点から住民の多くから従量制汲み取りに対しまして不満を持っていることが判明をしました。

そうして、計量器は法で定められているものでありますから、目盛りには狂いがあるはずはないわけでありまして、実際は汲み取り時に車両が停止をしていて、その位置によって狂いが生ずることが明らかになったのです。つまり計量器の基準は車両が水平に停止しているときに基準になっておりまして、傾斜した道路に停車したままで汲み取ると相当の狂いが生ずる。特に作業開始1番目で汲み取ると車両後部が下がっておりますので、いわゆる実量の数倍に目盛りがなってしまう。また反対に車両の前部が下がっておりますと、汲み取った場合に目盛りが非常に少なくなるという、こういったものがトラブルの大きな原因であるように思います。

そこで、質問であります。1、こうした種類の苦情はいままでどの程度市に寄せられてきましたか。2、その苦情に対してはどのような処置をなされてきましたか。3、今後の改善策につきましてはどのように考えられますか。以上、御質問いたします。

次に、第3点の福祉施策であります。身体障害者用のリフト付きのバスの購入についてであります。市内の重度肢体不自由者の福祉を増進することと自立更生の意欲を高めるということ、そのために身障者用のリフト付きのバスを購入しまして活用ができないかという趣旨の質問であります。

これは、福祉施策の一環としまして、障害者の野外の活動や社会見学な

どを行う機会をつくってあげようとするものであります。現在、市で使っているリフト付きのバスは特老で購入したものを必要に応じて借用するというのが現状であるように思われますが、乗車人員数もわずかですし、福祉向上の意味からも思い切って当市で購入をしたらどうかと提案をするものであります。この点につきましてお考えをお伺いしたいと思います。

同じく、第3点の福祉施策でございます。これは生保世帯に医療券を発行できないかという問題であります。現在生活保護世帯には国民健康保険の適用はありません。この保護世帯及び家族が医療を受ける場合には市に申し出をしまして、医療を受けてもよろしいという証明書を受け取りまして、そうして病院に行って診療を受けるというのが手順になっているようにございます。

しかし、夜間に急病になった場合に、またそうした急を要する場合に正規の手続を踏むということは、翌日になるまで待たなければならないという不合理性が生ずるわけでございます。また生活保護世帯は生活保護を受けているということで少々の病気はがまんをすると、そういう例が多いように思われます。

そこで、この生活保護を受けている世帯の人たちが安心して医療が受けられるように医療券を発行しまして、それを常に保護世帯の手元におきまして、いつでもそれを病院に提示すれば診療が受けられるという制度の確立を提案する次第であります。この点につきましてどのようにお考えになりますか、お答えをいただきたいというふうに思います。

次に、第4点であります。市道につきましてでございますが、当市の市道の舗装率は本年度の3月で55.6%というようにいわれております。今年度もかなりの市道が舗装されるというふうに思いますが、未舗装の市道は幅員が狭かったり、その他の問題が残されている部分であるように思われます。これから進めていく舗装の計画につきまして、その方法や対応策について説明をいただきたいというふうに思います。

以上、4点につきましてお答えをいただきたいと思いますが、なお御答弁によりまして、また再質問をいたしたいというふうに考えております。よろしく願います。

(市長半澤良一君登壇)

○市長（半澤良一君） 石井武敏議員の御質問にお答えをいたします。

21世紀の新時代を担う東京湾横断道路計画を含んだ第9次道路整備5カ年計画が先般の閣議で決定され、ようやくこれから国による大規模プロジェクト事業として基本的な調査が実施されることになるわけですが、それに向けて東京湾横断道路を促進する千葉県民会議の発足、千葉新産業三角構想等の対応体制が打ち出されているところであります。

本計画は、半島という地理的条件を大きく変え、南房総に力強い活力を生み出し、新しい産業の展開や農林水産業の新しい可能性を引き出すことが期待されるわけですが、したがって基本的にはこの機会をとらえて市民各位の知恵と力を結集していただきまして、館山市はもちろん当地方の将来にわたる発展策を十分検討、計画してまいりたいと存じます。

御質問の第1点、将来の道路交通体系や地元産業の推進についてですが、当地方が飛躍的發展を遂げるためには道路網の整備を図らなければならないわけですので、まず道路交通体系につきましては国道127号、409号、410号等の広域交通網と、さらには当市の都市計画道路の整備を推進してまいりたいと考えております。

地元産業の推進については、交通体系の整備に伴い広域的な地域へと新しい産業立地の可能性、農水産業の首都圏への時間短縮により生鮮食糧品等の供給基地としての役割を高めてまいりたいと考えております。

第2点の観光施策についてでございますが、東京湾横断道路が整備されますと、南房総は首都圏における余暇利用地としての位置づけが一層強いものとなることが予想されます。したがって、自然環境を保全した上で、家族ぐるみで楽しめる健康的な観光地帯として、従来の海洋型中心の観光に加えてスポーツや農漁業と観光を有機的に結びつけた滞在型観光地づくりを推進してまいりたいと考えております。

第3点の高齢化社会への対応ですが、特に当市では高い比率になっておりますので、援護を要する方々への福祉の充実はもとより健康の確保、生涯を通じての社会参加による生きがい対策等充実した老後生活を送るための条件整備を図ってまいりたいと存じておりますが、いずれにしても、高齢者個人及び社会環境づくりの両面から対応しなければならないと考えております。

以上、3点にわたる概要を申し上げましたが、いずれも今後における大きな課題でありますので、市の新しい基本構想、基本計画が一応60年度を予定しておりますので、市民の方々の御意見を十分拝聴しながら、新しい時代に即応する明るく住みよい館山市の基本構想を策定してまいりたいと考えております。

第2点、し尿汲み取り車の計量器の改善についての御質問でございますが、し尿汲み取り量について市への苦情、問い合わせは、かつて月に1度か2度程度寄せられましたが、現在は月1度あるかないかでございます。苦情等があった場合は直ちに館山市環境保全公社に連絡し、従事者が説明をしておりますが、それでも了解が得られないときは、次の汲み取り時に立ち会ってもらふことにより納得していただいております。

現段階では、他に有効な計量器が開発されておりませんので、当分の間は現計量器を使用し、読み取りになお一層正確を期するよう従業員の指導徹底をしてまいりたいと思います。

次に大きな第3点、福祉施策の推進についてでございますが、その小さな第1点、障害者用リフトバスの件でございますが、現在館山特別養護老人ホームより2台の障害者用リフトつきバスを借用いたしまして、そのうちの1台をねたきり老人及び身体障害者の入浴援護事業を実施しております。なおもう1台のリフトつきバスは、館山市福祉作業所の入所者で通所困難な障害者の送迎に利用しております。したがって、この2台のリフトつきバスを有効、適切に活用いたしまして、重度障害者の福祉の向上を図ってまいりたいと考えております。

次に、生保世帯に医療券の発行をできないかという御質問でございますが、被保護世帯員が夜間、休日に急病等により受診される場合は、指定医療機関で受診し、翌日すみやかに傷病届を福祉事務所に提出することが義務づけられており、このため医療券の交付については考えておりません。

なお、このような緊急受診時に一時的に医療費の支払いをすることなく受診できる措置の一環として、生活保護受給証明書を要望により交付いたしております。

大きな第4点、市道の舗装計画についての御質問でございますが、本年4月1日現在の市道延長は423.5km、舗装延長は235.3km、舗装

率は55.6%でございます。そのうち幹線市道は92km、舗装延長は83.1km、幹線市道舗装率は90.3%でございます。その他市道は331.5km、舗装延長152.2km、その他市道舗装率は45.9%となっております。

今年度の市道舗装計画でございますが、幹線で1.15km、その他で2.86km、合計4.01kmで、今年度末の舗装率見込みは56.5%でございます。

今後の舗装計画といたしましては、幅員4m未満の狭い道路については地元の皆さんの御協力を得てできるだけ拡幅をしてから舗装をしていきたいと考えております。

以上、答弁を終わります。

○20番（石井武敏君） 第1点の東京湾時代を迎えた当市の施策につきましてでございますが、これは市長の答弁によりますと、この機会をとらえて市の発展策に積極的に取り組んでまいりたいという前向きの御答弁がございまして、あらあら了承をするものでございますが、いま少しく説明を加えていただきたいという点がございしますので、御質問を申し上げるわけでございますが、この東京湾道路の関連した環境整備としましては、第1に考えられますのが道路体系でございます。道路体系の改善、整備なくして、当市の発展はないというふうに考えて正しかろうと思っております。

そこで、御答弁の中に道路体系につきましては国道127号、409号、410号これらの広域交通網をまず整備をしていくと、それを推進していくと、それに加えて都市計画道路も推進していくんだと、そういうような御答弁がありました。私もこの道路の整備につきましては大きな期待を持っている一員でございます。

とにもかくにも、この東京湾時代の構想というのは非常に壮大な計画でございまして、私の手元にある資料によれば木更津と川崎の間をわずか15分で来てしまうという早さでございます。またこの東京湾道路ができたときに予定されます道路の使用自動車の台数は1日約4万5000台というふうに予想しております。非常に壮大な計画でありまして、私もこの計画に当市は乗り遅れることなく、いまから準備怠りなく計画を立てて取り組んでいただきたい。そういうように考える次第でございます。

そこです、お聞きしたいことは、127号バイパスこれは先ほど山中議員との質疑がありまして、おおむね了解しておりますが、409号と410号につきまして、これらの道路体系につきましまして、もう少し具体的に説明を加えていただきたいというように考えるわけでございます。

それから、私の質問の高齢化が目立っている、将来にわたりまして館山市は高齢化が目立っているわけでございます。これは他の市や地域から比較してもわかるとおり——全国平均からしましてもわかるとおりでございます。市長の御答弁の中にもこの高い比率をお認めになっております。

それに対する施策、健康維持とか、生涯教育の面から、いろいろの面から施策に取り組んでいく旨の御答弁がありました。私も非常に高齢者層が多いので、それが対策には十分留意をして適切な施策を講じていただきたいというふうに思っております。

そこで、私はお尋ねするんですが、高齢者事業団の設立という問題につきまして、これを将来的に見て市長さんはどのようにお考えになっておりますか、関係部長さんでも結構でございますが、お答え願いたいというふうに思います。

以上、質問します。

○経済部長（山田俊康君） 409号、410号の最初に経路を申し上げます。409号は川崎市から木更津市を通りまして、従前木更津茂原線とっております——茂原を通して成田までの実延長59kmでございます。

410号線は、いま申し上げました横断道から南房総への連絡道として、従前房総縦断道といわれたものに匹敵するものです。起点は館山市でありまして、国道128号線丸山町から——県道の名称で言いますと君津丸山線という名称で、北上いたしまして県道の千葉鴨川線に合流する——君津市の辻森地区で合流しておりますけれども、そこから三島大多喜線を北上しまして、袖ヶ浦町高谷地区から先ほど申しました409号線木更津茂原線と接続して、木更津市の終点まで59kmでございます。

体系として、いままで話題になっておりますのは、京浜地域圏と千葉、茨城地域圏を広域的に連絡する幹線道路であると、それから成田空港と羽田空港との連絡ネットワークの確保、当然両経済圏の結びつき、東京湾横断道と一体としての道路ネットワークの構成などがいわれております。

当然、当房総半島南部の地域から考えますと、狭小路性ということが何度もいわれておりますけれども、その打破ということも当然に入っているわけでございます。

○民生部長（鈴木 力君） 高齢者事業団の設立についてどのように考えているかというお尋ねでございますが、この高齢者事業団と申しますのは高齢者の方々の自主的な団体であるわけでございます。

当市におきましても、まず高齢者事業に対する意識調査を行いまして、この調査結果に基づきまして高齢者事業の対応を検討しようという考え方に立ちまして、過去昭和54年度に老人クラブの方々1200名を対象といたしまして調査を実施したわけでございますが、結論的にはやはり高齢者の自主的な団体でございますので、この事業に対する関心が高まって初めてこの高齢者事業団というものが運営がつくわけでございますので、そういう面から見まして残念ながら総体的に関心が薄かったわけでございます。働く意思のある人がわずかに4%、こういう結果であったわけでございます。その調査の限りでは高齢者事業団を設立いたしましても、運用はむずかしいという結論であったわけでございます。

また、関係機関、団体等の意見も聞いたわけでございますが、当市の地域では一般業者とのかかわり合い等考えた場合、非常に困難性がある。こういうような意見でございました。

このような調査結果でございましたが、過去4年前のことでございますので、これからの高齢化時代を考えますと、老人福祉の生きがい対策、高齢者の社会参加を促進するため重要な課題でございますので、本年度改めてさらに具体的な調査を実施したいというふうに考えておるわけでございます。その結果分析の上、対応をさらに深めていきたい。このように考えております。

○20番（石井武敏君） 高齢者事業団に関しまして、ただいまの御答弁ですと、なにかお年寄りたちは働く意欲があまりないような調査結果が出ているようにお答えからうかがえるんですが、もっと綿密に話し合いをする機会をとらえて、じっくりとそういう点話し合いを進めてみてもらいたい。私は決して働く意欲がないということは絶対ないと考えております。特に当市は高齢化比率が高い市であります。模範的なそういう施策が必要

であろうと思います。そうした点から高齢者事業団の設立に関しましては御検討を願いたいと思います。

道路の409号線と410号線につきましてただいまの御答弁で了解いたしました。

質問を次に移しますが、観光の問題を少し取り上げてみたいと思います。私は東京湾時代の観光はどうあるべきかということのを頭の中で想定してみますと、その1つには、各市や町がばらばらでいままですべて単独で行っている観光施策そうしたものを集約して、館山を中心とした安房の観光というものの、そうした骨組みが必要ではないかというように考えるんです。

安房に来ました観光客がそれぞれの市町村の魅力のある観光を効率的に楽しんでいけるという場所、ですから、もっと各市町村による共同開発された観光というものが将来像として浮かんでくるんですが、こうした各市町村との綿密な連携とか観光の推進、観光の宣伝そうしたものの力を合わせれば、非常に効果のあるものができるんじゃないかと思いますが、そうした点でどういうように考えられますか、お答え願いたいと思います。市町村の連帯性につきまして御質問します。

○経済部長（山田俊康君） 現在、南房総の観光客の誘致あるいは来てくれるであろう観光客に対しての宣伝、サービスのために安房郡市の観光協会と市町村が会員となりました南房総観光協会連絡協議会を結成しております。そして現に観光ミニガイド等の発行を継続的に行っております。広域的な共同宣伝活動というのは実施しております。

また、道路網の整備につきましても、この南房総観光協会連絡協議会等で住民と一体となって活動をしております。早期実現にも取り組んでおります。

御指摘の今後の共同宣伝あるいは将来計画、それぞれの市町村の役割等がそれぞれあるわけですが、そういった役割等も踏まえまして、協議会の中で御意見等も十分反映させながら進めてまいりたいと、このように考えております。

○20番（石井武敏君） 将来の観光につきましていろいろ御答弁願ったんですが、連絡協議会は現存しておりまして、ミニガイド等を出しておるという御答弁がありました。この連絡協議会というのは年に何回開かれて

いるかここで私はちょっとわかりませんが、まだ効率化が進められるというふうに考えられます。どうかもう一步この観光という面から連携をとりながら、将来にわたって施策を講じていていただきたいというように考えます。

観光の問題はこれで打ち切りますが、今後全体的な新しい時代を展望した、東京湾時代を迎えた十分認識した計画、いわゆる市の基本構想、その基本構想を元にした基本計画これらの策定でございますが、これからつくられる計画には、十分にその時代の重要性を認識してやっていただきたい。時代に即応した計画をつくっていただきたいというように考えるんですが、次の計画の時期としては、基本構想、基本構想に基づく基本計画これはいつ頃計画を実施になるんでしょうか、その点だけ確認します。

○市長公室長（斎藤武男君） 先ほど、市長の方から御説明がございましたように、現在の館山市の総合計画でございますが、これは49年9月に議会の議決をいただきまして、基本構想を決定しているわけでございますが、期間は昭和50年度を初年度といたしまして、昭和60年度を目標年次にしております10年計画になっております。

したがいまして、現在の予定では59年度計画のための準備と申しますか、当市が抱えております現況、課題あるいは国、県の上位計画の整合性等を含めまして十分分析しながら、60年にこの作業に入りたい。このように考えております。

○20番（石井武敏君） その基本計画の策定にあたりまして、どうか十分に東京湾時代を認識して計画を作成していただきたいというように申し添えまして、この件の質問は終わります。

次に、し尿汲み取りにつきましてでございますが、御答弁によりますと、月に1、2度いまままで苦情があった。現在では月に1度ぐらいであるというように苦情の件数の御答弁があったようでございますが、それは私は当局の認識不足でありまして、現状の掌握が正確になされていないというように考える次第でございます。まだ苦情が多いというように判断いたします。

この計量器の改善というものはだいぶ前から叫ばれておりまして、今日に至っているわけでございますが、現在では御答弁によりますと、新しい

計量器の開発待ちというように御答弁でございます。これは開発を待つ以外にないかもしれません。どうか正確な計量ができるように今後もあらゆる点から検討なさってやっていただきたいということを、この点は御要望申し上げます。

それから1点、これは関連でお聞きしますが、汲み取りの場合、非常に幅員の狭い道があって汲み取り車が入れないという例が館山市内にあります。そうした汲み取りの場所についてどういうふうになさっているか、一言お答え願いたいというように考えます。

○民生部長（鈴木 力君） 道幅の狭い車が入れないような個所につきましての対応でございますが、360ℓの小型車それを使ってなお入れない、こういう場所におきましては、普通の場合ホースが60m延長できるわけでございますが、さらに延長しても届かないというふうな個所につきましては、常時延長用のホースがそこに備えつけてあるわけでございます、そのホースを接続いたしまして使用しておるわけでございます。ホースを接続しても届かないという場所も何カ所かございますけれども、そういう場所につきましては、申請がございまして理由を御説明して断わっておる、これが6件程度あるかと思います。

○20番（石井武敏君） 質問を進めます。

保護世帯の医療券につきまして、これはお答えによりますと、やはり翌日すみやかに届けをするようになっておるということでございまして、御答弁の中に生活保護受給証明書を発行したとか御答弁ありましたけれども、そのへんをもう少し明らかにしてもらいたいんです。要するに、保護世帯がもっと容易に受給できる、安心して医療にかかれるという観点から質問しているわけでございますので、その生活保護受給証明書を持って行けばいつでも診察していただけるということなんですか。この証明書はいままで発行していたものなんですか、そのへんを教えてください。

○民生部長（鈴木 力君） 生活保護者の医療を受ける場合の方法でございますけれども、現在、正規にやはり決められておりまして、まず被保護者が傷病届というものを福祉事務所に提出いたしまして、その傷病届に基づきまして福祉事務所で発行する診療依頼書これを持参しまして医療機関で受診する。これが原則になっておりまして、平日この手続をしていただ

くわけでございます。

お尋ねのように夜間、休日の場合におきましては通達が出ておりまして、そういう場合におきましては、傷病届を改めて福祉事務所に提出しとまがないわけでございますので、そういう場合においては別に診療依頼書がなくても、各医療機関においては生活保護者であるということがわかれば診療が行われる。こういうことでございますが、いま申し上げました生活保護者であるという証明書は、これからそういう方法で出そう。こういうことでございます。

これは要望によりまして、たとえば生活保護者が非常に夜間等体のぐあいが悪くて急病になりやすい、こういう人はあらかじめ福祉事務所の方に申し出ていただければ、事前に生活保護者であるという証明書を交付しておきまして、その証明書によって各医療機関で夜間でもかかる。こういうことございまして、これからそういう制度をとりたい。このように考えております。

○20番(石井武敏君) 私の提案している医療券の役割や機能と、それといま御答弁にありました生活保護受給証明書の持つ機能と役割についてはっきりしたいと思って質問したんですが、生活保護受給証明書を持っていけば、医療券を発行しなくても、その医療券にかわるものとして、医療を受ける場合にはいつでも診療を受けられるというものであるように御答弁からは受け取ります。そのように私は理解しております。

それを、これから発行するということでございますが、これはいつ頃から発行するという運びになるんでしょうか。これから発行するというお約束をいまいただいたんですが、ぜひそうしていただきたいと思うんですが、医療券というように提案しましたものと同じ機能があるものならば、その証明書を早く発行して、安心して医療が受けられるようにしていただきたいというように考えて御質問するんです。これはいつ頃の予定か、確認をしたいと思います。

○民生部長(鈴木 力君) こういうふうな緊急の場合、いままで生活保護者が医療機関にかかれなかったという、こういうケースは全くないわけでございます。現在も全く支障はないわけでございますが、いま申し上げましたような旅行をする場合とか、いわゆる生活保護を受けているという

確認をするために証明書を出すわけでございまして、これは一部やっтерるところもあるわけでございますが、館山市におきましても生活保護証明書の交付は早速いたしたい。このように考えております。

○20番(石井武敏君) ただいまの御答弁で生活保護受給証明書につきましては了承いたしました。

次のリフトバスにつきまして、これは将来の問題として御検討をいただきたいというように考える次第でございます。福祉の増進という面から、あるいは障害者の社会参加という面から御検討願いたいというように申し添えます。

最後の4問目の市道の舗装の場合でございますが、市道を舗装する場合に地元の負担金がかかるようになっておると思います。工事の5分の1とか、8分の1とか、その状況によって負担がかかるようになっておると思いますが、その基準は現在どういうふうになっているか。いわゆる地元負担の基準はどうなっておりますか、説明していただきたいと思います。

私は、地元の負担というものをなくしていくのが本当ではないかというように考えます。あくまでも市道でございまして、市で維持管理をするというのがたてまえでございますので、そうした点から考えていきますと、市道を舗装するのに地元から負担金を一々取っているやり方が、やはり遅れているようにも思いますので、御質問するんですが、そうした点の地元負担金を将来なくしていく方向で考えられないかどうか、この点もあわせてひとつ御質問いたします。

○経済部長(山田俊康君) 市道整備の負担割合でございますけれども、昨年9月に市長からもお答えしておりますように、昭和55年までは地元の任意寄付というようなことで10%をいただいております。56年度からは幅員4m以上の市道についてはいただいております。地元負担なしということで年次計画で実施しております。4m未満の市道については、本年度3m以上4m未満の市道については1%、3m未満の市道については2%をお願いしてございます。

市長が昨年度申し上げましたように、将来は全廃ということで進んでおります。

○20番(石井武敏君) 市道につきましては、将来負担金を全廃すると

いうことで方向が決まっておるようでございますので、了承いたしました。

私の質問に関しまして、御答弁おおむね了承しましたので、質問を終わります。

○議長（石井 正君） 以上で、20番議員君の質問を終わります。

以上で、通告者による一般質問を終わります。

散 会 午後1時50分

○議長（石井 正君） 本日の会議はこれにて散会いたします。

次会は、明6月21日午前10時開会とし、その議事は各議案の審議といたします。

○本日の会議に付した事件

1. 行政一般通告質問